

令和4年度愛知県放課後児童支援員キャリアアップ研修

テーマ⑤「人材養成とチーム力」

2023年1月20日(金)

島田歩実

今回の研修で特に印象に残っているお言葉がいくつかあります。

“コミュニティ・オーガナイズング”というお言葉を初めて知りました。“ひとりひとりの力は小さいけれど力を合わせれば大きなことができる”、“ひとりひとりの多様性を資源としてつかう”という意味であることを学びました。例として『スイミー』が挙げられていました。今ちょうど1年生の国語の授業で子どもたちが習っていて、音読できいています。私も習いました。昔から、そして1年生の授業から国語の授業でとりあげられているということは、社会の中で生活をしていく上でとても大切な教えなのだと実感しました。

「リーダーとは、状況が常に変わっていく中で常に学ぶ。変化に適応していく。みんなの声をきいて実践していく」「良いチームとは、境界がある。安定して、定期的に会える。多様性(性別・年齢・経歴等)がある。という条件である」というように教えて頂きました。学童での生活に置き換えると、専任指導員だけが力やリーダーシップをもっている、その人がいない時に現場がまわらなくなってしまう。専任指導員として、変化していく日々の中でまずは誰よりも学び続けること。こうあるべきだ、昔からこうしているからこうする、という変わらない価値観をもつことももちろん大切。しかしその中で、いろいろな指導員さんからの声をききながら、今日の前にいる子どもたちが楽しく過ごすことができるようにするためにはどうしたらいいのかという最善のやり方を求め、いろいろなやり方をみんなで協力して実践して試行錯誤をしていくこと。ということ意識して心に留めていきたいなと思いました。

また、大切なこととして「言葉にしてみんなに話し、意識を共有すること」というお言葉がありました。あそびばクラブをこうしていきたい、こういうクラブにしたい、という思いをまずは私自身が常に考え、意見をもつこと。今は思っている、なかなかそれを言葉にして伝えることができていないかなと自分で感じています。言葉にして表すことで、目指していくべき道が定まってくるかなと思いますし、もしそれはちょっと違うんじゃないというご意見があれば、ききながら、最終的に目指すべき方向をみんなで共有していけるようにしていこうと感じました。

もうひとつ、「自分はどこで悩んでいるのかな?と考えることが大切である」というお言葉です。今回のグループワークでもあったように、直面している困難は何か?どうしたら解決していけるのか?というように考え、最終的な大ゴールを目指して順を追って、話し合いを進めていきました。日々悩むことはたくさんあって、でもその悩みを解決していくためには、ポイントをおさえながら、考えていく必要があると感じました。最終的にこの子にどうなってほしいか、そのために今何が問題になっているのか、そのために私たち指導員がどう

関わっていくべきか、ということ常を常に頭の中で描きながら考えていくことの大切さを改めて学ぶことができました。

学童保育指導員という仕事は、自分ひとりでは決してできない仕事であり、様々な多様な目で多様な力を合わせながら、みんなで子どもたちを育てていくことが大切です。そのためにチーム力は必要不可欠です。専任という立場としてこれからもみんなでチームとなり協力し合いながら、保育をしていきたいと思ひます。私たち指導員のチーム力(雰囲気)は子どもたちへも大きく影響していくと思ひます。一緒に働かせて頂ひている指導員さんたちも楽しく、そして子どもたちも楽しく生活ができるように、今回学ばせて頂ひたことを常に心に留めていこうと思ひました。